

当時の工事の様子を表わした絵



西根堰を作るための相談



堰を作る土地の様子を調べる



すきやくわで土をほり、もっこをかっいで運び、村人みんなで作る



堰の完成をみんなでいわう

むかしは今のように機械がありませんでしたから、堰をつくるためにたいへんな苦労や努力をしてきました。山にトンネルをほったり、かたい岩をけずったり、木をたおして取りのぞいたりするのも「くわ」や「のみ」「かなづち」などのかんたんな道具をつかい、おもに人の力だけですすめてきました。

西根堰にも次のような工事の大変なところがありました。

^{かたがり なんしよ}
「堅削の難所」

岩がかたくてトンネルがほれず、川岸のがけのかべをほってといをかけ、水を通したところで、今でもといを支えたいのあとが岩に残っています。

^{はなげ ずいどう}
「鼻毛の隧道」

やわらかい所は「つるはし」で、かたい所は「のみ」と「かなづち」でほった短いトンネル。鼻のあなになたトンネルに草や木の根が毛のようにたれているので、この地を「鼻毛」とよぶようになったといわれています。

工事につかわれた道具

